

リサイクルセンター整備事業に係る 生活環境影響調査の結果

1. 事業の概要

(1) 施設の位置及び規模

本施設（リサイクルセンター）は、図1に示す板倉町資源化センターの隣接地に整備する計画です。



図1 リサイクルセンターの計画地位置図

※この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「古河」を使用したものです。

表1 本施設で処理する廃棄物の種類及び施設規模

処理する 廃棄物の種類	不燃ごみ（鍋類、やかん、ガラス類、陶磁器類・飲料物以外のびん類、アルミ、金属製品等） 不燃性粗大ごみ（家具、寝具、自転車、楽器等）
処理能力	5t/日
系列数	1系列
処理方式	破碎・選別
年間稼働日数	258日程度
稼働時間	1日当たり5時間

(2) 施設配置計画

本施設の施設配置計画は、図2に示すとおりです。

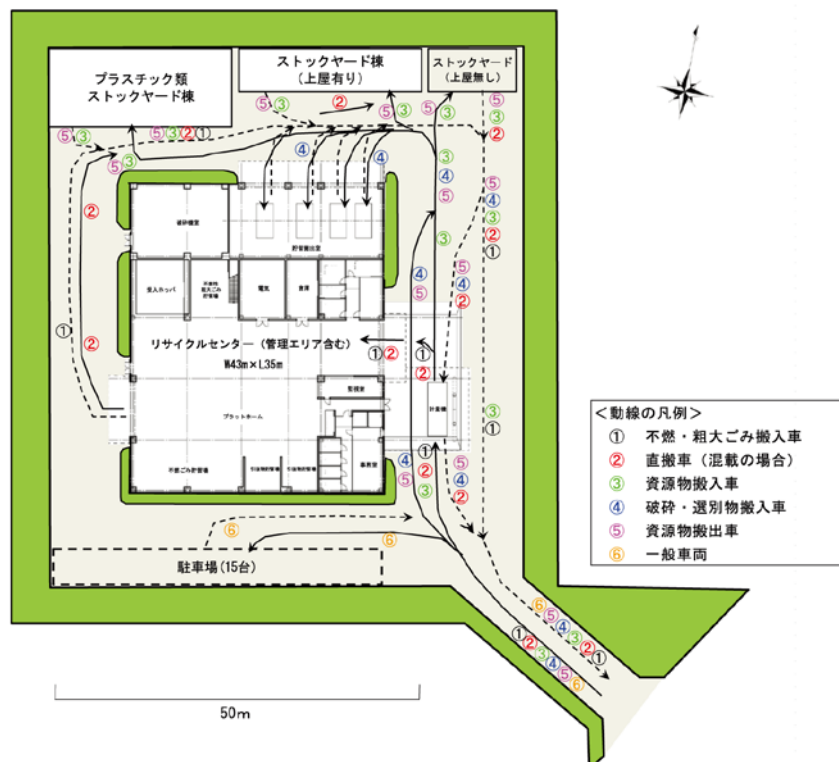


図2 施設配置計画図

※詳細な施設形状等は、一部変更となることがあります。

(3) 処理フロー

処理フローは、図3に示すとおりです。

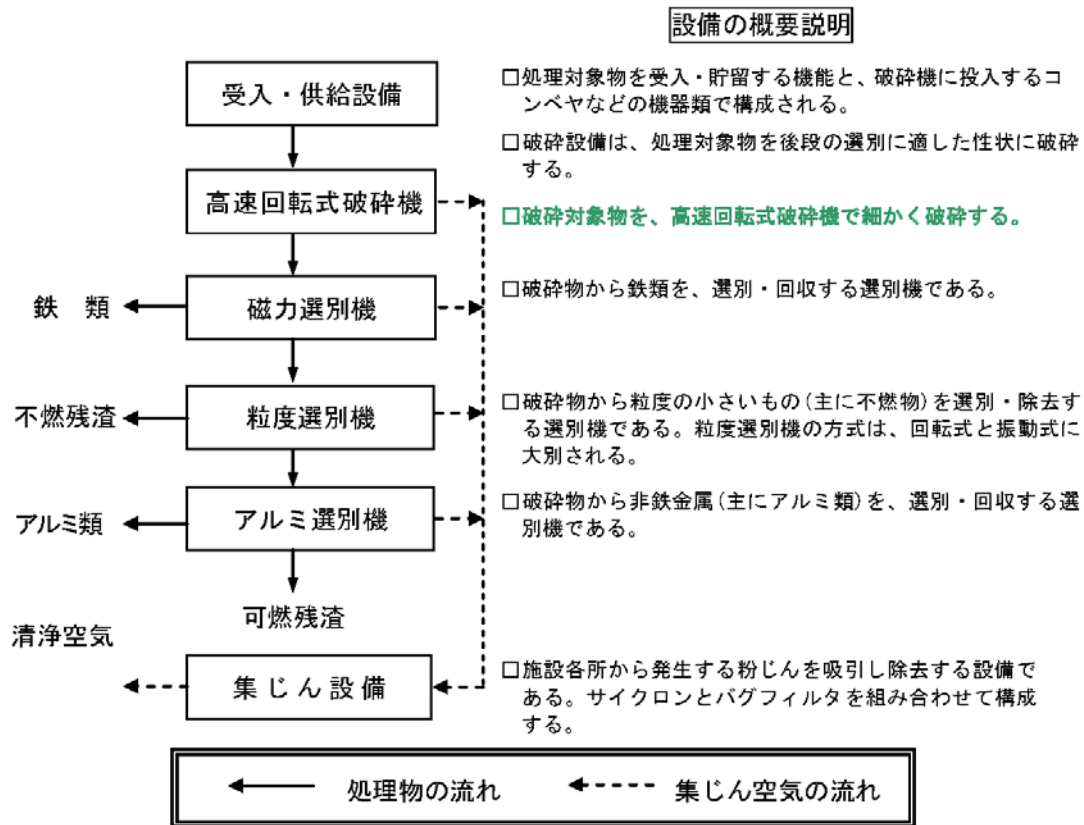


図3 処理フロー

(4) 車両計画

主な廃棄物運搬車両の走行ルート図は、図4に示すとおりです。

ピーク時の日当たりの廃棄物運搬車両台数は、直接搬入車両及びごみ収集車両合わせて48台/日と試算しています。

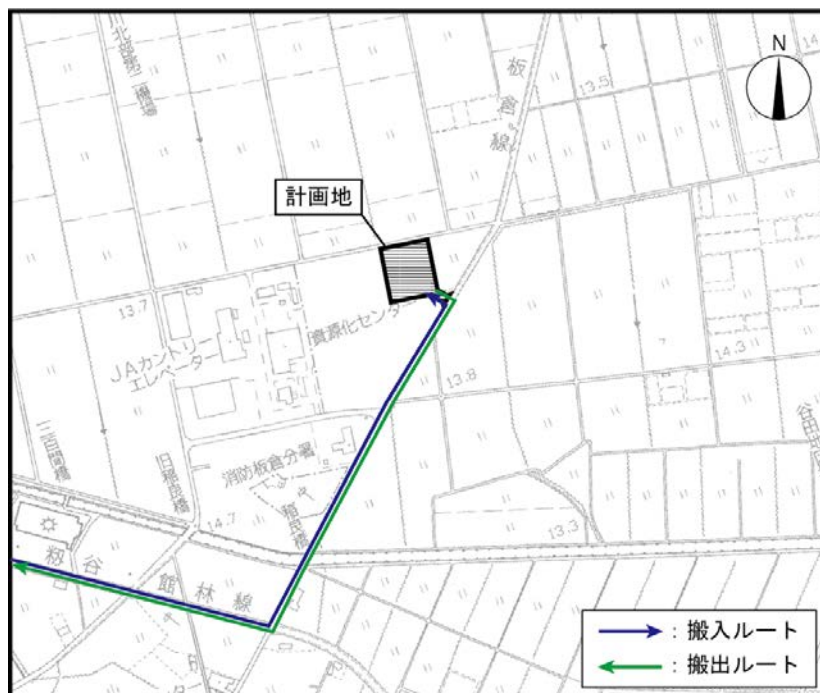


図4 主な廃棄物運搬車両の走行ルート図

(5) 公害防止対策

本施設では、関係法令に基づく規制基準値と同等以上の生活環境保全値（保証値）（表2参照）を定め、施設の運転管理を行います。

表2 生活環境保全値（保証値）

項目	生活環境保全値（保証値）	
1) 排水		
(1) 水素イオン濃度（pH）	5.8以上8.6以下	
(2) 生物化学的酸素要求量（BOD）	20mg/L以下	
(3) 浮遊物質（SS）	50mg/L以下	
2) 粉じん		
(1) 集じん器出口排気中の粉じん濃度	0.1g/m ³ N以下	
3) 騒音・振動	下記の数値は、敷地境界線上の値を示しています。	
(1) 騒音	朝（午前6時から午前8時まで）	50dB以下
	昼間（午前8時から午後6時まで）	55dB以下
	夕（午後6時から午後9時まで）	50dB以下
	夜間（午後9時から翌日の午前6時まで）	45dB以下
(2) 振動	昼間（午前8時から午後7時まで）	65dB以下
	夜間（午後7時から翌日の午前8時まで）	55dB以下

2. 生活環境影響調査の調査対象項目

「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」に準じて、表3に示す生活環境影響調査項目を抽出・設定しました。

表3 抽出・設定した生活環境影響調査項目

調査事項	生活環境影響要因	施設の建設工事	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行
	生活環境影響調査項目					
大気質	粉じん			●		
	二酸化窒素					●
	浮遊粒子状物質					●
騒音	騒音レベル	●		●		●
振動	振動レベル			●		●
悪臭	特定悪臭物質（22項目） 臭気指数（臭気濃度） 臭気強度				●	
水質	生物化学的酸素要求量		●			
	浮遊物質		●			
	その他必要な項目		●			

3. 現地調査、影響の予測・分析の結果

3.1 大気質

(1) 現地調査結果

平成 24 年 12 月及び平成 25 年 7 月に実施した計画地近傍の資源化センターにおける一般環境、計画地周辺の主な廃棄物運搬車両走行ルート上における沿道環境の調査結果は、下表に示すとおりです。

環境基準が設定されている二酸化窒素及び浮遊粒子状物質は、いずれも環境基準値を下回っていました。

項目		現地調査結果	環境基準値等
一般環境	浮遊粉じん (mg/m ³)	期間平均値	0.032～0.043
		日最高値	0.064～0.072
沿道環境	二酸化窒素 (ppm)	期間平均値	0.020～0.026
		日平均値の最高値	0.031～0.038
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	期間平均値	0.028～0.050
		日平均値の最高値	0.061～0.085

1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

(2) 影響の予測・分析の結果

①施設の稼働に伴う粉じん

本施設では、以下に示す対策を実施し、粉じんの飛散を防止する計画であり、粉じんの影響は小さいと予測します。

- ・作業は基本建屋内で行い、作業中出入口は閉める。
- ・防じんカバーによって、粉じんの飛散を防止する。
- ・ホッパ、コンベヤ等粉じんの発生が予想される箇所の粉じんを吸引し、集じん装置により除じんする。
- ・発じんを防止するために散水設備を設ける。

②廃棄物運搬車両の走行に伴う大気質

予測結果は、右表に示すとおり、いずれも生活環境の保全上の目標を下回ります。

項目	予測結果	生活環境の保全上の目標*
二酸化窒素 (ppm)	0.029	0.04 以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.052	0.10 以下

※環境基準値

3.2 騒音・振動

(1) 現地調査結果

平成 24 年 12 月に実施した計画地近傍の資源化センターにおける環境騒音・振動、計画地周辺における主な廃棄物運搬車両走行ルート上における道路交通騒音・振動の調査結果は、右表に示すとおりです。

いずれも環境基準値、規制基準値及び要請限度を下回っていました。

項目		現地調査結果	環境基準値等
騒音 (dB)	環境騒音 (L _{Aeq})	昼間 (平均値)	46
		夜間 (平均値)	40
	道路交通騒音 (L _{Aeq})	昼間 (平均値)	65
		夜間 (平均値)	59
振動 (dB)	環境振動 (L ₁₀)	昼間 (最大値)	26
		夜間 (最大値)	25 未満
	道路交通振動 (L ₁₀)	昼間 (最大値)	42
		夜間 (最大値)	39

※1：環境基準値

※2：特定工場に係る規制基準値

※3：道路交通振動に係る要請限度

(2) 影響の予測・分析の結果

①建設機械の稼働に伴う騒音・振動

予測結果は、右表に示すとおり、いずれも生活環境の保全上の目標を下回ります。

項目	予測地点	予測結果	生活環境の保全上の目標※
騒音 (dB)	敷地境界 (L _{A5})	64	85 以下

※特定建設作業に係る規制基準値

②施設の稼働に伴う騒音・振動

予測結果は、右表に示すとおり、いずれも生活環境の保全上の目標を下回ります。

項目	予測地点	予測結果	生活環境の保全上の目標※
騒音 (dB)	敷地境界 (L _{A5})	39	55
振動 (dB)	敷地境界 (L ₁₀)	51	65

※本施設の基準値 (生活環境保全値)

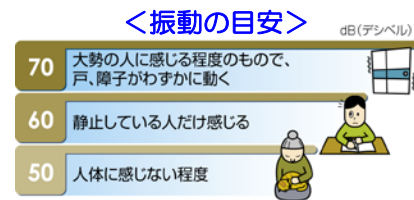
③廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音・振動

予測結果は、右表に示すとおり、いずれも生活環境の保全上の目標を下回ります。

項目	予測結果	生活環境の保全上の目標
騒音 (L _{Aeq}) (dB)	65	70 以下※ ¹
振動 (L ₁₀) (dB)	42	65 以下※ ²

※1: 道路交通騒音の環境基準値

※2: 道路交通振動の要請限度



3.3 悪臭

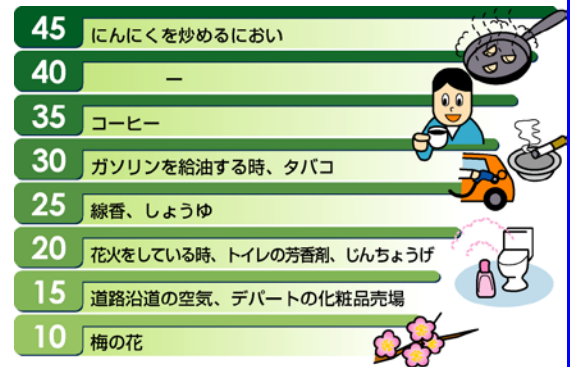
(1) 現地調査結果

平成 25 年 7 月に実施した計画地近傍の資源化センター(敷地境界)における調査結果は、下表に示すとおりです。

臭気指数は、悪臭防止法で定められている規制基準値を下回っていました。特定悪臭物質濃度(アンモニア、硫化水素等)は、アンモニアを除くすべての物質で定量下限値未満でした。

項目	現地調査結果	規制基準値
臭気指数	10 未満	21
特定悪臭物質濃度	アンモニア 0.1ppm その他定量下限値未満	—

<臭気指数の目安>



(2) 影響の予測・分析の結果

計画地近傍の既存施設(資源化センター(プラットホーム出入口))では、堆肥化処理に由来すると想定されるノルマル吉草酸等が検出されましたが、これらは定量下限値でした。本施設の処理物は臭気の原因となる有機物は少なく、また、堆肥化処理も実施しないため、既存施設(資源化センター)を超える悪臭にはならないと考えられます。

また、既存施設(館林市清掃センター)は、敷地内に粗大ごみ処理施設以外の焼却施設などが存在しますが、敷地境界では、特定悪臭物質濃度及び臭気指数は定量下限値未満でした。本施設は、粗大ごみ処理のみであり、既存施設(館林市清掃センター(敷地境界))と同程度または下回る悪臭となると考えられます。

以上のことから、本施設から漏洩する悪臭は、既存施設と同程度または下回ると予測し、本施設から漏洩する悪臭の予測結果は、生活環境の保全上の目標(臭気指数 21、臭気指数 21 に相当する特定悪臭物質濃度)を下回ります。

3.4 水質

(1) 現地調査結果

平成25年2月に実施した施設排水流入先の板倉川(排水路合流部)における主な調査の結果は、右表に示すとおりです。

項目	調査結果	項目	調査結果
流量	0.23 m ³ /s	溶存酸素 (DO)	7.9 mg/L
水素イオン濃度 (pH)	7.4	大腸菌群数	1,700 MPN/100mL
生物化学的酸素要求量 (BOD)	1.5 mg/L	全窒素	3.3 mg/L
化学的酸素要求量 (COD)	4.2 mg/L	全磷	0.38 mg/L
浮遊物質 (SS)	5.0 mg/L		

(2) 影響の予測・分析の結果

施設からの排水は、予測の結果、いずれも生活環境の保全上の目標を下回ります。

予測地点	項目	予測結果	生活環境の保全上の目標※
板倉川 (排水路合流部)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	1.5 mg/L	5 mg/L
	浮遊物質 (SS)	5.0 mg/L	50 mg/L

※板倉川は河川環境基準が設定されていないため、周辺の土地利用の状況等を勘案し、板倉川の合流先の谷田川の環境基準値(類型区分C)を準用しました。

お問い合わせ先

【 事業者 担当部署 】

館林衛生施設組合(館林環境センター) 施設整備係

〒374-0013 群馬県館林市赤生田町65-1 電話: 0276-72-1624 FAX: 0276-72-6655

【 環境調査の委託先 】

パシフィックコンサルタンツ株式会社 マネジメント事業本部 環境部